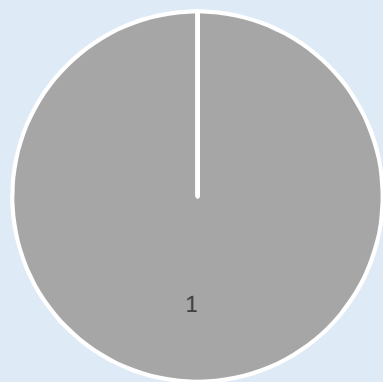


地域連携の推進に向けた事前アンケートの回答

東京都保健医療局医療政策部

事前アンケートの主な意見（島しょ）

地域医療連携システムの導入状況



- 地域医療連携に関するシステムを導入している。
- 地域医療連携に関するシステムを今後導入する予定がある。
- 導入予定なし

病院としての主な機能別の導入状況

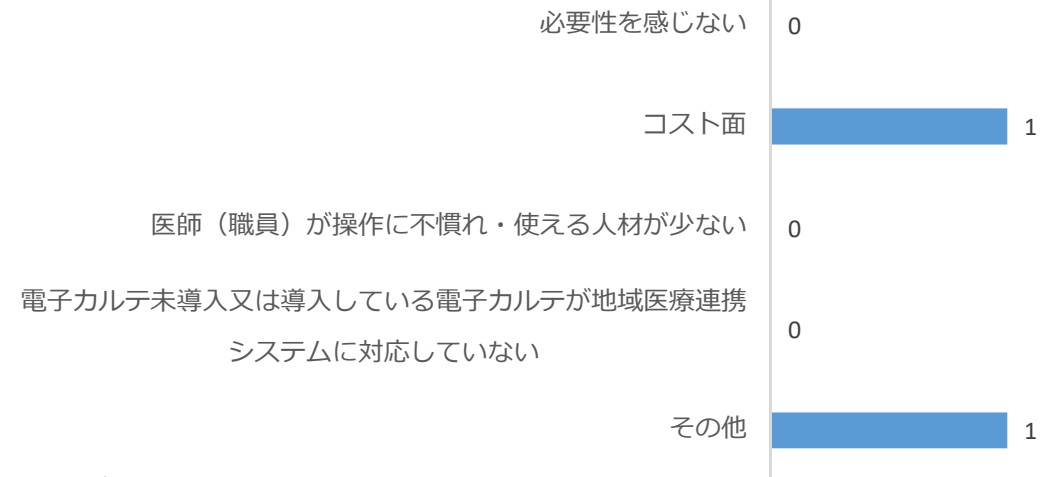
病院としての主な機能	病院数	うちシステム導入済
高度急性期	0	0
急性期/サブアキュート	0	0
回復期/ポストアキュート	0	0
慢性期	0	0
ケアミックス（急性期・回復期）	0	0
ケアミックス（回復期・慢性期）	0	0
その他	0	0
計	0	0

■ 今後導入予定または導入予定なしの病院の回答

医療連携の際にどのような手段を用いているか

診療情報提供書を医療連携担当（当院ではMSWが担当）を介し主にFAX送付にて連携医療機関と情報共有をしている。主治医同士での電話による情報共有（比較的急ぐ場合など）や情報提供書の郵送の場合もある。都立広尾病院とは、画像伝送システムを利用し当院の画像を共有できる。

導入していない理由（複数回答可）



その他

・システム導入すべきと考えているが、今までの都の各協議会（地域医療構想調整会議、へき地医療対策協議会等）で具体的な計画が提案されておらず（当方が把握していないのかも知れませんが）、またコストが相当にかかるため独自に院内で導入検討することは控えていた。また、東京都の地域医療連携システムデジタル環境整備促進事業も当院では把握できていなかった。

どのような点が改善されれば導入するか

- ・都の補助事業によるコストの負担軽減
- ・内地医療機関（島しょでは広尾病院をはじめとした都立病院機構）との協議

事前アンケートの主な意見（島しょ）

■ DXを活用した地域医療連携の理想的な姿

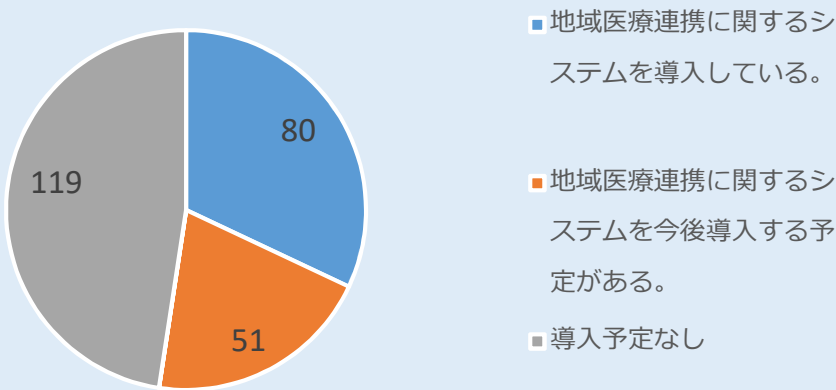
- ・電子カルテの単純な共有では他院での患者情報把握の労力が増えるので、診療情報提供書や入院サマリ・病歴サマリ等や、必要な検査データ・画像の共有、更には病状以外の情報共有（患者の生活背景や福祉・介護体制、かかりつけ医療機関の対応能力等）もできると良い。
- ・治療検査オーダーの共有は難しいが、処方内容をオーダとして流用できると便利（他院の処方内容を再度手入力する手間が省ける）。
- ・緊急事案でなければ、情報共有や検討のために主治医同士がお互いのスケジュールを合わせることは効率が悪く、情報を共有しつつ意見交換（チャットでなくても掲示板の様な、それぞれのタイミングで発言）できるような共有画面のシステムがあると良い。
- ・島しょの場合は本土の専門医が天候不良で来れず専門外来ができなくなる事案が多々あり、対象疾患にも依るがD to P with D or Nが構築できると良い。リモート診療体制は予定的行われるものの他に、上記の様な予定外の状況や緊急患者（現地患者を本土に相談）等での臨機応変な利用もできるとなると良い。

■ 地域医療構想に関する意見

- ・電子化された患者情報を一旦印刷し、他院で再度スキャンで電子化（さらに印刷物の保管・破棄等の管理など）する労力はお互いの医療機関にとって大変大きいと思いますし、情報共有が滞り診療経過に影響する場合も少なくありません。また、離島などのへき地では患者さんが上京し本土医療機関に受診するだけでも小旅行となります。高齢者・病弱者および同伴家族の身体的・経済的・時間的負担は大きく、連携システムによりこのような負担が軽減することに期待します。

事前アンケートの主な意見（都全域）

地域医療連携システムの導入状況

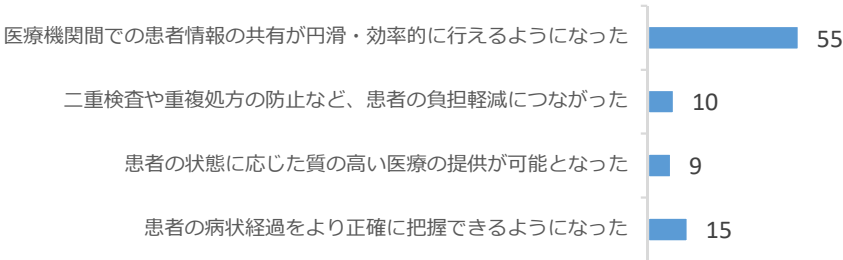


病院としての主な機能別の導入状況

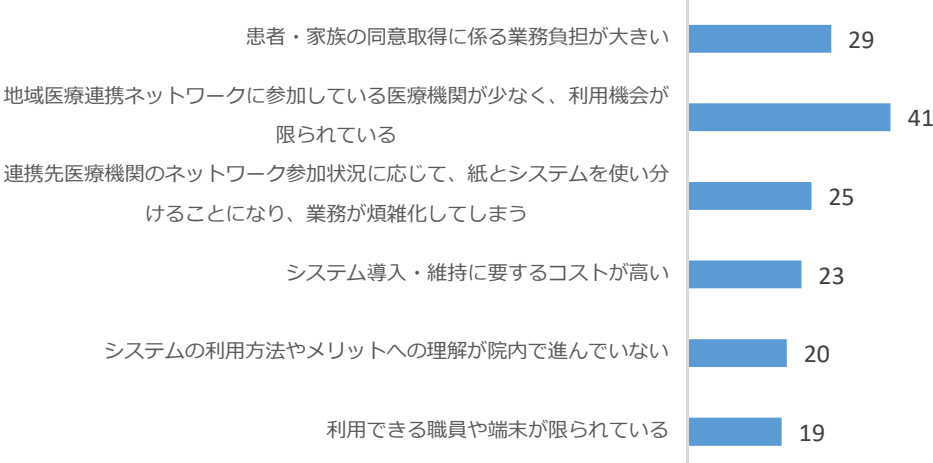
病院としての主な機能	病院数	うちシステム導入済
高度急性期	36	19
急性期/サブアキュート	79	27
回復期/ポストアキュート	15	4
慢性期	34	6
ケアミックス（急性期・回復期）	33	13
ケアミックス（回復期・慢性期）	18	6
その他	35	5
計	250	80

■ 導入済みの病院の回答

システム導入によって得られたメリット（複数回答可）



導入や運用面での課題（複数回答可）



■ 今後導入予定または導入予定なしの病院の回答

導入していない理由（複数回答可）

